信頼に関連づけた印象形成のテキスト分析

○深谷澄男¹・柳澤智恵子²(非会員)
 (¹ 恵泉女学園大学・² 小諸看護専門学校)
 キーワード: テキスト分析・印象形成・信頼

Text analysis of impression formation corresponding to the conditioned trust

Sumio FUKAYA¹, Chieko YANAGISAWA²

(¹ Keisen University, ² Komoro School of Nursing)

Text analysis, impression formation, trust

目 的

本研究では「信頼」について探索する。Asch (1952) の印象形成法に準じて「信頼できる人／信頼できない人」の印象を形成させて尺度評定と自由記述で回答してもらう。そして、人物特徴を呈示する項目や順序が、形成された印象に関する記述テキストにどのような影響を及ぼすかを検討する。

方 法

- 実験参加者 81 名 (女性、年齢範囲 18-23 歳)
- 実験計画 1 要因参加者間要因。要因は、呈示する特徴項目の組み合わせであった。
 ++ 条件(19 名): 信頼できる人の特徴(+) 6 項目を呈示。
 -- 条件(20 名): 信頼できない人の特徴(-) 6 項目を呈示。
 +- 条件(21 名): (+) 3 項目を呈示後、(-) 3 項目を呈示。
 -+ 条件(21 名): (-) 3 項目を呈示後、(+) 3 項目を呈示。
- 呈示刺激
 ・項目は事前調査で決定した。人物特徴の自由記述から、記述頻度の多い単語項目を選出して、(+)(-)に合致する項目に順位をつけてもらい、各上位 6 項目を採用した。
 ・本実験で使用した項目 (1 ~ 6 位順)
 (+)項目: 協力、正直、一生懸命、約束守る、親身、冷静
 (-)項目: いいかげん、ごまかす、自己中心的、横柄、意見を押しつける、機嫌をとる
 ・1 項目 1 短文を構成して、各条件 6 文を紙面で呈示した。
 (例) 何事にも協力的です。 / 仕事がいいかげんです。
 ・+- 条件、-+ 条件は、(+)(-)項目の 1 ~ 3 位を呈示した。

4. 手続き

- 人物の信頼度評価
 ・条件に応じて、6 つの短文が書かれた紙を呈示する。
 ・呈示した人物が、どの程度信頼できるかを 8 件法で評価してもらった (-4 ~ +4)。
- 人物の印象に関する自由記述回答 (1 週間後)
 ・呈示した人物が、どのような人だったかを自由に記述して回答してもらった。

結 果

1. 信頼評価 (Figure 1)

- とても信頼できない(-4) ~ とても信頼できる(+4)までを、1 点 ~ 8 点に換算して平均値を算出した。

Figure 1 人物評価に関する平均値

- 分散分析の結果、有意差が認められた ($F(3,77)=15.34$, $p<.05$)。多重比較を行うと、以下のような結果になった。
 ・ ++ 条件が他条件よりも有意に平均値が高い ($p<.05$)。
 ・ -- 条件が他条件よりも有意に平均値が低い ($p<.05$)。
 ・ +- 条件と -+ 条件の間には有意差なし ($p>.05$)。

2. 人物の印象に関する自由記述 (1 週間後)

a. 呈示した 6 項目の記述頻度 (Table 1)

- すべての自由記述を形態素に分割したあと、4 条件で共通して呈示した 6 項目について頻度を集計した。

Table 1 信頼評価実験で呈示した項目の出現頻度

		条件			
		++	+-	-+	--
(+) 項目	協力	2	1	3	0
	正直	0	2	1	0
	一生懸命	0	0	0	0
(-) 項目	いいかげん	0	1	4	5
	ごまかす	0	2	0	1
	自己中心的	0	0	1	1

b. 記述頻度の多い単語 (形容詞) (Figure 2)

- 自由記述の中から、人物の印象を表現しやすいと考えられる形容詞だけを選出した (18 種類)。
- 18 種類の形容詞ごとに出現頻度を集計して対応分析を実行して、パイプロットを作成した。

Figure 2 自由記述に出現する形容詞の対応分析
考 察

信頼評価 (Figure 1) では、+- 条件と -+ 条件の間に初頭効果に対応した違いを認めることができなかった。しかし、自由記述では出現単語に違いが現れた (Figure 2)。形成された人物の印象は呈示項目の単なる再生ではないと考えられる。

引用文献

Asch, S. 1952 *Social psychology*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.